

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2017.09.No241

9月号

目次

防災の日・災害特集 芽室町の台風災害	1
防災の日・災害特集 どこでも起こりうる災害への心構えを	2
委員会報告	3
Coffee Break	4
道士会の動き	5
特集 北海道建築士会 会員作品紹介 2017	6
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>

防災の日・災害特集

芽室町の台風災害

十勝支部 副支部長 千葉 得 功

平成28年8月30日から31日にかけて十勝地方を台風10号が通過し、30日夜から31日未明には、降り始めからの降雨量が、芽室市街地で154mm、伏見地区で414mmを観測しました。これにより芽室川など複数の河川が氾濫し、幸いにも人的被害は発生しませんでした。住宅全壊1棟をはじめ、多数の床上・床下浸水など、甚大な被害をもたらしました。主な被害状況は次のとおりです。

- ・道路通行止め 国道・道道・町道合わせて22か所
- ・橋梁崩落、損壊 5か所
- ・農地被害 77戸 141.7 ha
- ・企業被害 24社（社屋内浸水・機械設備水没等）
- ・住宅被害 全壊1棟・半壊3棟・床上浸水53戸
床下浸水66戸 等



河川の氾濫による建物への浸水状況

町は8月30日に災害対策本部を設置し、1,170世帯3,214人に避難勧告・避難指示を発令し、避難所10か所に1,117人が避難しました。避難時の課題としては、広報車での音声では雨音と近年の断熱・気密性能の良い住宅内では聞き取れないこと、また、避難を拒否する人がいる事でした。

最終的には、町職員の個別訪問と自衛隊の協力を得て、被災地区全住民が避難できました。

氾濫した水が引いた後、残された大量の汚泥は、9月3日以降、ボランティアが参加し、汚泥処理が実施されました。



汚泥を処理するボランティアの皆さん

その後、町の建築士会会員に被害住宅の調査協力依頼があり、町職員と共に被害住宅の調査・点検をし、修繕・改修等のアドバイスを行いました。

今回の災害では避難伝達のあり方など、今後検討すべき課題も数多く見出された事から、町では台風10号に係る様々な対応を検証し、課題について整理・検討を行っており、住民にもアンケート調査・意見交換を実施し、その対応策を報告書として取りまとめて今後の防災対策を進めて行く予定となっています。

芽室町は、平成29年3月に「平成28年台風10号芽室町公共施設等災害復旧計画」を策定し、平成29年度は復興元年とし計画を進めています。基幹産業農業の町の復興を願っております。

今回の台風災害から建築士として多くのことを学びましたが、今後、発生が予測されている大地震の災害も想定した中で、「何ができるのか」、「何を求められているのか」を常に考えながら、災害に強いまちづくりに行政と建築士会が連携し、取り組んでいくことが重要であると改めて感じたところです。

最後になりますが、9月の台風災害の際、国や北海道の機関をはじめ、多くの方々の支援をいただいたことに対し、町民として心より感謝し、御礼申し上げます。ありがとうございました。

どこでも起こりうる 災害への心構えを



富良野支部 事務局長 中村 勝利

会誌の寄稿依頼を頂き、締め切りが近づき書き始めたその日、九州において過去に例をみないほどの大雨のニュースが入ってきた。

「平成29年7月九州北部豪雨」と気象庁により命名された豪雨災害は、河川の氾濫、がけ崩れ等が多くの地域で発生し、交通網の寸断、断水、避難生活が今も続いているという。7月19日現在、福岡・大分両県で30名以上の死亡が確認され、今もなお不明者の捜索が続いていると聞く。

昨年8月30日、岩手県に上陸した台風10号は、日本各地に甚大な被害をもたらした。富良野市の隣町南富良野町も記録的な降水量により、浸水の恐れから47世帯約100名に対し、避難準備情報が同日17時30分に発令され、19時50分には避難指示となり「保健福祉センター」と「南富良野小学校」に避難し、8月31日未明、幾寅市街地中央を通る国道38号線の空知川にかかる「太平橋」左岸付近の堤防等2ヶ所が決壊し、市街地の半分ほどが一瞬にして水に浸かったと当時の状況を地元の士会会員に後に聞いた。避難所としていた「保健福祉センター」の1階部分にも浸水し、避難者が2階や屋上への再避難を余儀なくされ、施設周囲が水没したため、付近の住民も屋根や自動車の上に緊急避難し、道・道警・札幌消防局のヘリにより明け方救出されるまで不安と恐怖の時を過ごした様子はテレビニュースでも報道された。

幸いにして人的被害は無かったものの、床下浸水73戸、床上浸水116戸、田畑等の浸水約200haの被害を受けたようだ。

9月1日には早々にボランティアセンターが開設され、翌年5月29日、9ヶ月に及ぶ活動を終え閉所。この間、延べ5,981人に及ぶボランティアにより、床下、室内の泥だし家具等の清掃、農業用ハウスの片付けなど住民からの要望446件に対応頂いたようだ。

収穫を前にして畑の流失、床下・床上にたまった土砂を目の前にして途方にくれるなか、参加したボランティアの床下に這いつくばり泥まみれになりながら特有の土砂臭とたたかいながら黙々と作業を続ける姿に対し、感謝の言葉しかなかったと、自分も現地を訪れた際に多くの住民から耳にした。

南富良野町は、総面積(665.54km²)の9割が森林、大雪山系の十勝岳、南は日高山脈、西は芦別岳、夕張岳を主峰とする夕張山脈と四方山に囲まれ、東西に流れる空知川に沿って今回被害を受けた落合・幾寅ほか6つの集落が形成された自然豊かな町である。

基幹産業の農業と共に森林資源を活用した林業・観光産業の振興に取り組んでいる。

決壊した空知川は、日高山脈、狩勝峠を水源として石狩川水系の中でも最大規模を誇り、町の中央には、1967年に竣工したダムにより、道民の生活用水約3か月分の貯水容量を有する人工湖「金山湖」がある。

山に囲まれ、大きな川と湖の近くに暮らしながら住民誰もがこの災害を予想してはいなかったのではと思うが、近年の気象変動により今年も各地で過去に経験のない大雨による災害が起きており、どこでも起こりうる災害と捉え日常の心構えと対応への準備を自分の暮らす富良野においても必要なことと再認識する。

今回の災害に際し、支援協力として被害を受けた住宅の「罹災証明」の発行のための調査活動を北海道はじめ札幌、上川管内の行政庁の建築・税務関係職員と共に参加させて頂いた。

初めての経験で判断に苦慮する場面もあり、地震時における応急危険度判定など災害時での建築士の活動に対する期待も大きいと思われ、実際の出番は無いことを願いながらも、「いざの時」のために技術の研鑽に日々努めて下さい。若者に期待。

還暦過ぎの自分は体力的に二次災害のおそれがありそうなので。



床上浸水の被害を受けた町営住宅

まちづくり委員会

まちづくりフォーラム in 名寄

まちづくり委員

北野 学 (名寄支部)



6月17日に第7回まちづくりフォーラムが名寄市で行われました。穏やかな天候の中、52名の方に参加をいただき、有難うございます。フォーラムはまちあるき、市長挨拶、名寄産業高等学校の提案発表、パネルディスカッション、ワークショップという順で進行しました。

まちあるきは主管である名寄支部遠藤支部長の案内で、駅前商店街を中心に廻り、名寄名物? 「煮込みジンギスカン」の昼食をとりました。かつて名寄の台所を支えた2条市場もシャッターが下りている店が目立ちます。



【まちあるき 名寄2条市場】

加藤市長からは、冬季スポーツの充実等、得意分野に特化した政策の推進。同時に周辺町村と横の連携をとって地域を面として強くすること。商店街のコミュニティー機能を大切にすることが必要という話をいただきました。



【市長による名寄の紹介とこれから】

産業高校の発表は、去年の建築甲子園で北海道代表になった作品

「はじめの一步」をベースに駅前の活性化について提案していただきました。ものづくりを主体に置き、名よせ通りのアーケードをカッコ良く改造利用しコミュニティーの構築を図る内容です。現役の学生と卒業生が協力し、スライドと模型を使って理想の未来を映し出したプレゼンは超高校級の出来で感動しました。



【産業高校作 駅前の名よせ通りの模型】

パネルディスカッションは、加藤市長、商工会議所の藤田会頭、産業高校の笠木教諭、名よせ通りから村瀬印舗の村瀬氏、なにいろカフェの黒井氏の計5名がパネラーとなり、豊かさを感じるまちづくりについて語ってもらいました。ソフト面に豊かさを求める意見が多く、今後のまちづくり活動はどういったものが必要なか参考になりました。



【パネルディスカッションの様子 左から加藤市長、藤田会頭、笠木教諭、村瀬氏、黒井氏】

ワークショップはパネラーも務めていただいた、黒井氏にファシリテーターをお願いし、参加者一人一人がどう行動すれば、街が良くなっていくか話し合いました。高校生も活発に発言し、世代や地域、立場などを越えて意見を出し合える有意義なワークショップになりました。



【ワークショップの様子】

フォーラムを通して、ひとつ気になることがあったので、報告いたします。ある一般の方から次のような感想・意見をいただきました。「妙に上から目線でまちづくりについて語っている」。

私たち建築士は一般の方と同じ目線で話していたつもりが、意識というか感覚がズレて伝わるときもあることに気づきました。建築士どうして話す場合はほぼ同じベクトルの人間なので共調しやすい内容も、一般の方には伝わっていない。これは建築士として大いに反省する事と思いました。そして建築士の認知度アップ、地域社会とのつながりをより大切にしていける必要を感じる意見でした。



【懇親会にて集合写真】

今回で7回目となるまちづくりフォーラム。開催したまちの人たちが、まちづくりについて考える良いきっかけになるのはもちろん、私たち建築士にとっても為になることが多いと思います。来年以降も道内のどこかのまちで開催していきますので、機会があれば是非ご参加ください。

北広島支部 何をどうすれば良いのか

支部長
関川 修司



支部便りの依頼が来てしまった。広く北広島支部の事業を全道の皆様にお伝えするコーナーである。張り切って書きたいのであるが記事がない。少ない会員がまた一人減となった。この方は消防職の方、1級建築士で私の仲の良い友人の一人でもあった。

さて、支部事業であるが、会員が少ない上に高齢者が多い。先日、我が町でふるさと祭り、酒祭りが行われた。かつては、ふるさと祭りに参加して、焼き目を付けたプランターケース、バードテーブル、竹材の水鉄砲、貯金箱、竹とんぼ、バッコ柳の組を会員が楽しみながら作り、大いに販売した。大いに売れた。大いに儲け、大いに飲んだ。木製品は、施工会社をお願いをしての端材、竹材と柳の木材は購入した。製作実演販売。屋根を銅板で葺いたバードテーブルを作って呉れた会員がいた、どうせ売れないだろうと高額の値段を付けて飾っていたところ、神棚にす

ると買って呉れたお客さんがいた。若くもあり、動ける会員も多くいた時期の良い思い出である。

“あれから・十年”ヘリテージ事業がはじまり、道内各地の聖徳太子講調査に歩いている。太子講の方々も同年配が多い。同じく事業資金に苦勞している。この話をしたら、大いに受けた。次年度からやってみようという太子講の方もいた。

仏教を日本に広め、建設技術、瓦、鋳金、鋳、お花、理容・美容、音楽、美術、手工業、そして尺度を庶民に教え、薦めたのが聖徳太子。太子を偲んでの太子講・祭、かつてはマチを挙げてのお祭りであったが、年々規模が小さくなり、止めて行くマチが多い。「先輩から受け継いできた太子講を止めるわけにはいかない」と頑張っている、我が支部の姿と重なる。そんな中、我が支部の過去の事業が役に立てばと念じている。

ヘリテージマネージャー特別委員会も4年目となり、ヘリテージ事業も進んでいる。マチの遺産を利用することに変わりはないが、法3条の適用除外が、空き家対策

にも対応している。移築した建物に補助金があるという。とかく文化財建造物には維持管理に多額の費用がかかる。歴史的建築物は大事にしたいが、維持管理補修には地元潤いが少ない、ヘリテージマネージャー（以下「ヘリマネ」）が44道府県で4,000人を超え、発注条件にヘリマネの採用を謳ってきている。その結果、地域の資産の維持管理には地域のヘリマネが携わっている。

ヘリマネが扱う登録文化財は、「地域の者が担う」。地域振興であり、職域拡大にもつながる。ヘリマネ事業は過去のことでなく、今行っている業務の延長上にある。

道内のヘリマネの方々には建築士会に是非入会して貰いたい。そして、北広島に居住のヘリマネ、建築士の方も是非入会していただきたい。

建築士会は会員の技術・知識の向上、生業の拡大にあると思う。支部のあり方、何をどうすれば良いのか、会員となって考えてみませんか。

ヒントを探しにまずは動こう、後志大会参加。

根室支部 賛助会員との交流

支部長
敷浪 徹



7月23日(日)午前3時半、小雨と雷が鳴る中、標津港を出港し30分程で漁場に到着し賛助会員との「カレイ釣り大会」がスタートしました。

例年は11~12名(満船)の参加ですが、今年は諸事情により5名が欠席となり賛助会員4名、支部会員2名の6名での寂しいスタートとなりました。

根室支部では賛助会費を頂いている賛助会員の皆様との交流を深めるために、十数年前から「カレイ釣り大会」を開催しております。

さて、釣り糸を降して早速カレイが掛かり始め途中から雨も止

み、波・風とも穏やかな絶好の釣り日和となりました。各人次々とカレイを釣り上げ、午前11時に終了となり港へ引返しました。

各人のクーラーには大量(平均60枚)カレイが入っており、早速計量を開始、大物賞は55cmで支部会員が、重量賞(カレイ6枚)は10.44kgで賛助会員がそれぞれ獲得し、釣果としては十分満足する大会となり、来年の再会を期して散会となりました。

後日、釣った魚は地方へ発送したり、友人・知人やご近所さんへお裾分けを行い処分したそうです。

海沿いの支部や海に近い支部の方は、釣れる魚はそれぞれ違うと思いますが仲間との交流または賛助会員との交流に考えてはいかがでしょうか？

根室支部の新入会員は十年以上なく、会員の年齢も20代と30代が各1名で平均年齢は55歳となり、事業を行うことが困難な時期に差し掛かっており、会員の減少や賛助会員の協力を得るため今後は他支部の事業を参考にし、新しい企画を考え支部の存続をしてゆきたいと考えております。



賛助会員と共に

青森県建築士会下北大会 多くの小学生親子の参加で開催される

副会長 吉木 隆

平成29年度(一社)青森県建築士会下北大会が、7月8、9日むつ市で大会テーマ「海と大地と人と建築」を掲げ開催されました。

【記念事業】



晴れやかな受賞者

記念事業として、まちづくり・女性・青年・下北支部協同で、むつ市内の小学生を対象に「こんなお家にすんでみたい! 青森の住宅コンテスト」を実施しました。応募総数701作品が集まり金賞3作品、銀賞6作品、銅賞15作品、特別賞24作品が選ばれました。また、作品は3日から9日まで、むつ市役所開放エリアで全作品が展示公開され、親子づれで作品を熱心に見ていました。この事業は青森の未来を担う子供達に住まいについて考えて頂くためのアイデアコンテストで、未来の住まいづくりについて考えるきっかけとして、同士会が地域貢献活動として今回で5年目となります。大会式典前に受賞者への表彰式が行われました。今までで一番多い受賞者が舞台上上がり、緊張した面持ちで川島青森県建築士会会長から表彰状と副賞を渡され、その後全員で記念写真に納まりました。

【記念講演】



宮下むつ市長による記念講演

式典に先立ち、むつ市長宮下宗一郎氏による「下北ジオパークと建築」のテーマで記念講演が行われました。38歳の若い市長は国土交通省出身で、郷土むつ市に対する熱い思いが伝わって来ました。下北ジオパークは、海に面した人々の生活と自然、大地を総合的に体感出来るようテーマを“海と生きる「まさかり」の大地」と設定、ジオ資源の価値を理解し、伝え、守り、地域社会や教育に末永く活用していく。ジオツアーを22回実施748名の参

加を得ている。また、認定商品の募集や国際交流、新たなジオサイト探し、次代を担う子供達への出前授業の開催等の活動が紹介されました。講演前にシニア・ナイスミドル委員会が「下北ジオパーク見学会」を実施し、大湊水源地公園・安渡館・東通村尻屋崎・石持漁港・北部海岸をまわりジオパークを実体験し講演を盛り立てていました。

【大会式典】

大会式典では、川島会長から青森県建築士会の状況や連合会の取り組み等が報告されました。その後2支部青年委員会から地域実践活動報告がありました。三沢支部は「学校にあったらいいな! ~小学生デザインコンテスト」で、28・29年度の2年計画で支部内小学校に募集を行い1609点の作品が集まりました。入賞作品から作品製作しプレゼントする計画で継続中です。新聞2紙にも掲載されています。青森支部は「建築体験ウォッチ」が3年連続で報告され、年々レベルアップしている内容です。子供達に建築関係職業の模擬体験により「こども建築士免許証」を交付しています。この報告により大会式典は終了しました。

【大懇親会】

大懇親会オープニングは、約370年の歴史をもつといわれている田名部まつり「祭り囃子」が披露されました。毎年8月18~20日に5台の山車が市内に繰り出し、練り歩き多くの人出があるとのこと。主管下北支部菊池支部長の開宴挨拶、宮下むつ市長祝辞、祝電紹介、高野北海道建築士会会長の乾杯で祝宴がスタートしました。和気あいあいの中祝宴は続きましたが、あっという間に時間経過、其田むつ商工会議所会頭の中締めで閉宴となりましたが、司会者の手違いで次期開催地アピールが抜け落ちるハプニングがありました。参加者の爆笑の中、三八支部谷川支部長のアピールが行われ本当の閉宴となりました。その後は手配のバスで「むつ銀狐マップ」を手に、それぞれ飲食街へと繰り出して行きました。翌日は支部対抗スポーツ大会(下北カルタ)と親善ゴルフ大会で汗を流し家路につかれたことと思います。

平成29年度 東西アスファルト事業協同組合からの助成を活用した委員会活動について

今年も東西アスファルト事業協同組合から200万円の助成が決まり、委員会活動に協賛・支援をしていただくことになりました。

東西アスファルト事業協同組合では平成26年度より事業エリアごとにその風土や地区性を踏まえた広告宣伝事業活動を実施しており、地区の主体性をもった活動が推進されているところです。

今年で4年目となる平成29年度の助成対象事業は次の事業です。情報委員会では、地域情報の発信などに見て楽しめる紙面づくりを目指し、魅力ある情報誌とするため「北海道建築士」のカラー化を推し進めます。(助成18万7千円)まちづくり委員会では、一般の方々を対象に景観まちづくりや魅力的な景観資源を守り育てていくことを目的として「景観まちづくり塾」を開催します。(同24万8千円)青年委員会では、この助成の発端となった「木で遊ぼう!

マイはし作り体験」や未来を担う子供達に建築への興味と建築士になりたいといった思いを持ってもらうことを目的に「建築のお仕事体験イベント」を実施します。(同36万円)女性委員会では、高校の家庭科授業において自分自身のライフスタイルや住環境を考え、住まいへの関心を高めるきっかけづくりを行う「建築士による家庭科等住教育出張講座」を実施します。(同69万円)被災地応急支援委員会では、一般家庭で減災・防災についての話し合うきっかけづくりのための分かり易いテキストとして「減災・防災マニュアル」を作成します。(同24万円)会員増強特別委員会では、1級・2級及び木造建築士の新規合格者の方々を対象に新建築士セミナー及び免許証の授与式を開催します。(同27万5千円)本年もこの助成を有効に活用して委員会の事業活動を進めます。

北海道建築士会 会員作品紹介 2017

ごうだ整形外科

設計・設計工事監理：中井 寿也 (札幌支部)

一級建築士事務所
アトリエTARO



写真：上段/外観 昼 左下段/内観 待合 右下段/外観 夜

建物概要

所在地：岩見沢市
建物用途：診療所（整形外科：収容施設なし）
建築年：平成28年4月

設計の意図等

コンセプトは、地域に密着した開放感のあるクリニックになるよう計画しました。

外観は道路面を曲面にする事で、道路側から見た際の認知度を高める事を意識し、また、岩見沢の地域風土との調和を目的として、外壁面にレンガタイルを多く使用しました。

内部に関しては、待合部に面した曲面にガラスを採用し、吹抜けにする事より開放性を保ちました。クリニックの機能面を充実させるためには、患者の体力的な負担と診療時間をできるだけ軽減する事が重要と考え、患者の動線とスタッフの作業動線を分離など、可能な限り短くする計画としました。

ほうせいアニマルクリニック

設計・施工：佐藤 栄司 (札幌支部)

ミサワホーム北海道



写真：上段/外観 左下段/受付・待合室 右下段/診察室

建物概要

所在地：帯広市
建物用途：動物病院
建築年：平成28年4月

設計の意図等

道東では珍しい眼科にも対応出来る最新の設備を備えた眼科手術の出来る動物病院です。屋外にはリハビリの為のドックランとストレス無く外で待つ事の出来る大き目のポーチを設定し外観のデザインとした。

受付・待合室は動物と飼い主がリラックスして診療の順番を待つ事の出来るレイアウトとインテリアと内部は動き易い動線と全体を見渡す事の出来るよう十分に打ち合せを行い設計した。また内部の床は衛生面を考えた素材にし立ち上がり幅木部分は継ぎ目を無くしRの形状とし掃除をし易くした。

本誌及びホームページにて募集した会員の皆さんの作品をご紹介します。
 今年は5回目。診療所、住宅というその地域に住む人にとって身近な建物が集まりました。
 建築士と使い手、住まい手のこだわりの作品をご覧ください。これを機会に会員の技術力向上とこれを起点とした
 コミュニケーションによる士会活性化につながればと思います。なお、応募作品はホームページにも掲載していま
 すのであわせてご覧ください。

ホシヅキヨノイエ

設計・設計工事監理：山崎 景子 (釧路支部)

一級建築士事務所 設計処櫻

建物概要

所在地：北海道標茶町
 建物用途：専用住宅
 建築年：平成28年10月

設計の意図等

タンチョウが降り立つ最高のロケーションと標茶町の満天の星空の下、その風景に溶け込みながら「ワンとニャンを含めた家族の団欒を楽しむ」をコンセプトに建てられたお家です。ご夫婦と娘さん2人、猫と犬が一匹ずつという家族構成。1階はひとつの大きなL・DKと水廻りのみの空間ですが、中央吹き抜けに面した螺旋階段や間に設けた段差により視覚的に分離することで、寛ぐ空間と家事動線との干渉が無いように配慮しています。仕上げ材については、床はナラ無垢材、壁天井全てに漆喰など自然素材を使用することで室内環境をより良く整えるよう配慮しています。何よりも、建主からの「家が大好きで休日はほとんど家にいますよ。」という言葉がとても嬉しい作品となりました。



写真：上段/リビングからの眺め 左下段/外観 右下段/螺旋階段

掘邸新築工事

設計・施工：吉川 朝一 (宗谷支部)

石塚建設興業株式会社

建物概要

所在地：稚内市
 建物用途：専用住宅
 建築年：平成25年7月

設計の意図等

高台に建つ一軒家。日本海と最北稚内の夜景が一望できる景勝地に建設しました。生活の中にこの景色を取り込みたい、趣味と暮らせる家、仲間や親戚が集まる家になりたい。そんな施主様のご要望と立地から受ける特惠をバランスよく取込んだ、こだわりの住宅です。このコンセプトとあわせて配慮したのが手軽に、“綺麗”を維持できる事。食卓の作り置きベンチには収納機能をもたせるとともに、焼肉の煙を間近で効率よく排気できるよう照明器具一体型の排気設備を採用。玄関上がり框の下には常時履く靴を簡単収納できるなどちょっとした工夫も。また、2階に配置した浴室では湯船につかりながら天井から流れる音楽とともに、窓からの夜景が、仕事の疲れを洗い流してくれる、癒やしの住宅としました。



写真：上段/多目的スペース 左下段/食堂 右下段/外観

道士会の動き

道本部の主な会議報告（8月）

◆第3回総務委員会

〈開催日〉8月5日(土)

- 〈議題〉
- 1) 第62回建築士会全国大会（北海道大会）の大会テーマ（案）等
 - 2) 第42回全道大会（後志大会）の決意文（案）
 - 3) 第43回全道大会（士別大会）の大会テーマ（案）
 - 4) (一社)北海道建築士会会長表彰
 - 5) 平成29年一般会計収支予算の補正(案)
 - 6) 平成30年一般会計予算編成
 - 7) 専攻建築士の認定審査に関する基準を定める規則(審査基準)の改正(案)
 - 8) 継続的な能力の開発の促進に関する規則に基づくプログラム審査評議会及び専攻建築士審査評議会評議員の委嘱(案)
 - 9) 各種貢献賞等の推薦

◆第3回青年委員会

〈開催日〉8月19日(土)

- 〈議題〉
- 1) 青年サミット
 - 2) 全道大会（後志大会）C分科会
 - 3) その他

◆第1回情報委員会WEB会議

〈開催日〉8月23日(水)

- 〈議題〉
- 1) 全道大会（後志大会）の号外
 - 2) 会誌の編集内容
 - 3) HPの更新状況
 - 4) その他

関係機関等会議参加予定（9月）

22日(金) 日本建築士会連合会正副会長会議
高野会長出席

道本部の主な行事予定（9月）

- 1日(金) 第3回理事会
2日(土) まちづくり委員会WEB会議-2

編集後記

毎年「今年は異常気象で…」とされている気がしますが、皆さんはどう思いますか？

今月号は昨年の台風被害について地元支部から寄せられた報告があり、あらためて甚大な被害だったことが思い出されます。記事には被災経験からの課題提起がありましたが、みなさん「もし、自分の地域が被災したら？」と考えてみませんか。もしかすると必要な防災対策の1つや2つ、気が付くかもしれませんね。

…さてこの先、“正常気象”の年は来るんでしょうかねー。
情報委員会 高松 徹（上富良野支部）

CPD認定プログラム(8月認定)

◆第42回(一社)北海道建築士会全道大会A分科会

《日程及び会場》9月30日(土) 12:00~14:30
倶知安風土館
(倶知安町)

《単位数》 2単位

◆第42回(一社)北海道建築士会全道大会B分科会

《日程及び会場》9月30日(土) 9:50~14:30
ニセコ中央倉庫群
(ニセコ町)

《単位数》 3単位

◆第42回(一社)北海道建築士会全道大会C分科会

《日程及び会場》9月30日(土) 12:00~14:30
倶知安町文化福祉センター
(倶知安町)

《単位数》 2単位

◆第42回(一社)北海道建築士会全道大会基調講演

《日程及び会場》9月30日(土) 16:25~17:35
倶知安町文化福祉センター
(倶知安町)

《単位数》 1単位

◆「建築士による家庭科住教育出張講座」

- 《日程及び会場》
- ・9月26日(火) 北海道新得高等学校
 - ・10月5日(木) 北海道新十津川農業高等学校
 - ・10月13日(金) 北海道北見工業高等学校
 - ・10月18日(水)・19日(木) 北海道江差高等学校

《単位数》 各2単位

《上記プログラムに関する問合せ先》

(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

講習会のご案内

平成29年監理技術者講習

(一社)北海道建築士会 事務局 9月20日(水)

情報委員会委員長/早川 陽子
副委員長/齋藤 勝哉・高松 徹・森 勝利
委員/熊谷 智・柳山美保子・鈴木 雅人
柏倉 晶憲

北海道建築士 No.241号

印刷 平成29年8月/発行 平成29年9月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番